

(臨床研究に関する公開情報)

江南厚生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ併用化学療法有害事象の単施設での検討

[研究責任者]

江南厚生病院 血液・腫瘍内科 河村優磨

[研究の概要]

オビヌツズマブ併用化学療法(G-chemo)は、従来からの標準治療であったリツキシマブ併用化学療法(R-chemo)よりも優れた無増悪生存期間を示し、2018年の上市以降、濾胞性リンパ腫の初回治療ならびに再発時の救援療法に広く用いられ始めています。その優れた抗腫瘍効果の一方で、Infusion-related reaction や好中球数減少、血小板数減少といった有害事象が R-chemo よりも高頻度で発生する可能性が示されていますが、その詳細は明らかになってはいません。当院で行われた濾胞性リンパ腫に対する G-chemo での有害事象の発生頻度や重症度についての検討を行うことで従来治療との特徴の違いを探り、有害事象への対策や対応をより十分に行えるようにすることが目的です。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

当院において2019年2月から2021年3月までにオビヌツズマブ併用化学療法が行われた濾胞性リンパ腫19例について、電子カルテにて身体所見や血液検査といった有害事象に関わる項目が確認できる方。

●利用するカルテ情報

年齢、性別、濾胞性リンパ腫のGrade、stage、治療内容、Infusion-related reaction 発生時の診療記録、血液検査 等

[個人情報の取扱い]

この研究では、お名前、住所など、患者さんの直接特定できる個人情報は使用しません。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

●研究責任者：江南厚生病院 血液・腫瘍内科 河村優磨

電話 0587-51-3333 FAX 0587-51-3337